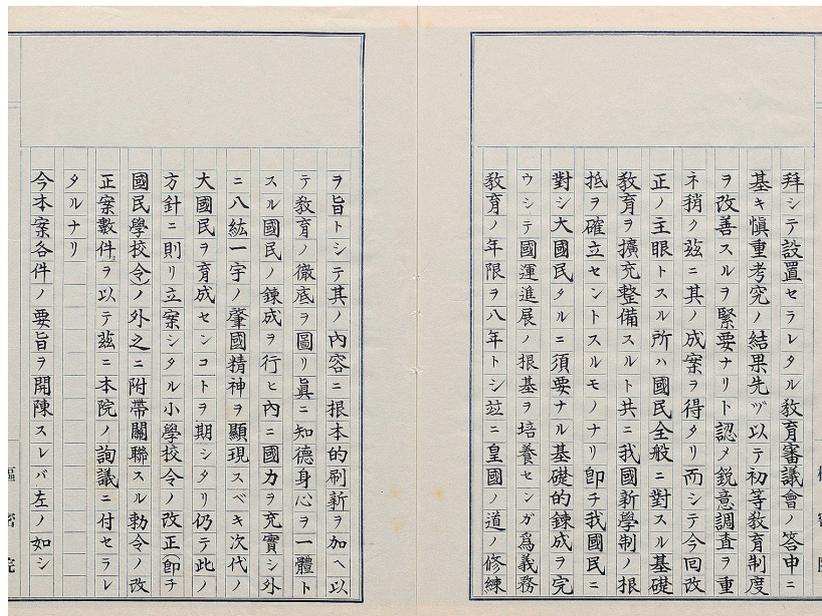


『郷土学習読本』（富山県氷見町上伊勢尋常小学校刊行）

資料は、昭和7年(1932)に氷見上伊勢尋常小学校が刊行した郷土学習のための教材で、1学年1冊で編集されています。郷土や日常生活に即した事物を題材として、様々な教科の学習内容を学ぶ形式となっており、児童自身が調べ学習を行うためのワークシートがついている箇所も多数あります。全6巻のうち、本展では、1・3・6年生用を展示しています。見開き箇所は、3年生用に掲載の「郷土かるた」です。大正時代中期以降の児童中心主義の教育は、昭和に入ると、堅実な生活主義の教育へと大きく変化しましたが、その中で多くの小学校において独自に作成した教材が刊行されました。

富山県教育記念館所蔵

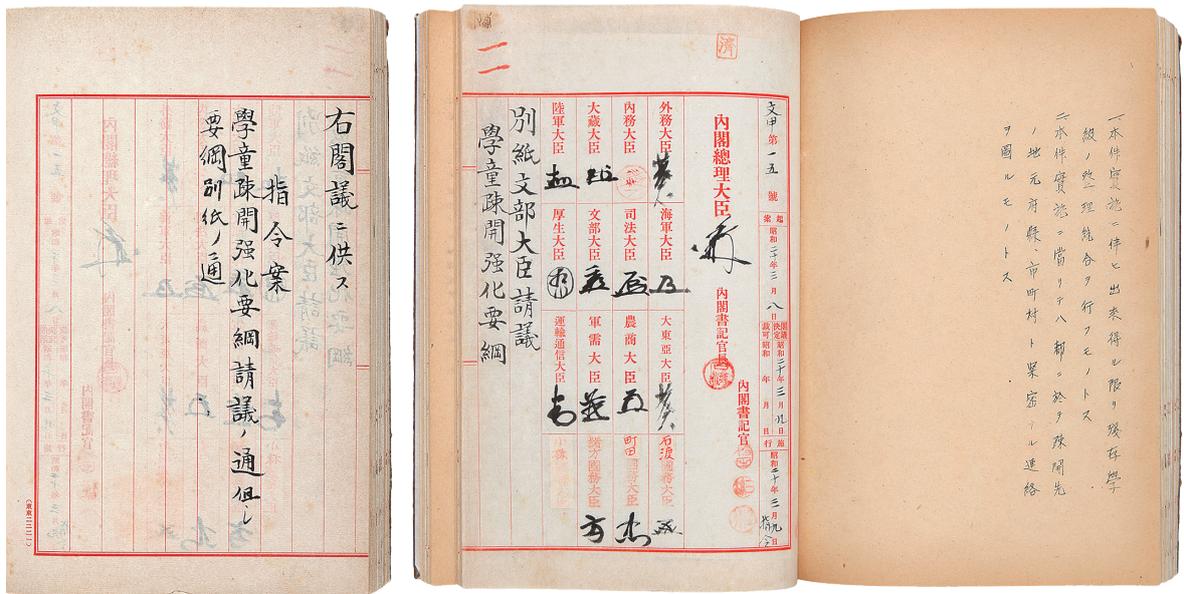


小学校令改正ノ件

昭和16年(1941)4月、小学校令が改正されました。この時の改正では、小学校は国民学校と改称され、皇国の道に則った普通初等教育を行い、国民の基礎的錬成を行うことが目標とされました。資料は、同年2月19日の枢密院本会議で提示された小学校令等に関する審査報告です。

請求番号：枢D00862100

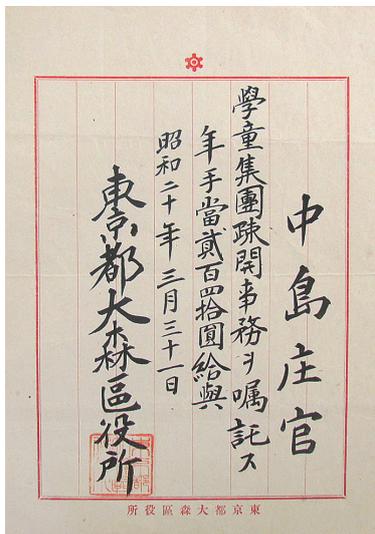
国立公文書館所蔵



**学童疎開強化要綱**

第二次世界大戦中の昭和17年(1942)4月、アメリカ軍による日本の各都市への空襲が行われました。最初の空襲による被害は軽微でしたが、昭和19年7月のサイパン島陥落以降、各都市への空襲が激しくなります。日本本土では昭和16年から限定的な疎開が行われていましたが、昭和19年6月、学童疎開の促進が閣議決定されます。昭和20年3月には、学童疎開を徹底させるため、学童疎開強化要綱が定められました。この要綱に従って、国民学校初等科の児童を中心に縁故疎開や集団疎開が行われました。資料は、学童疎開強化要綱が閣議決定された時の閣議書です。

請求番号：類02941100  
 国立公文書館所蔵

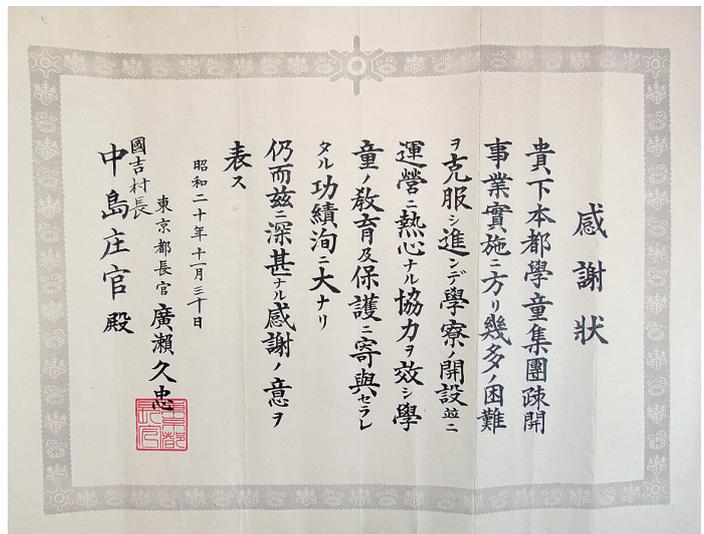


**学童集団疎開事務委員委嘱状**

資料は、第二次世界大戦末期の昭和20年(1945)3月に、当時の東京都大森区(現在の大田区の一部)の区役所が、中島庄官氏(国吉村、現・高岡市)に、学童集団疎開の受け入れに係る事務を担う事務委員を、年手当240円で委嘱した際の委嘱状です。

なお、昭和20年の学童集団疎開(第二次疎開)では、氷見郡や西砺波郡の町村で大森区の学童を多く受け入れていました。

中島家文書 富山県公文書館寄託



**学童集団疎開事業への協力に対する感謝状**

資料は、第二次世界大戦終結後の昭和20年(1945)11月に、当時の東京都長官・広瀬久忠の名で、中島庄官氏(国吉村、現・高岡市)に対して贈られた学童集団疎開事業への協力に対する感謝状です。中島氏は東京都大森区から事務委員に委嘱され、学童集団疎開の受け入れに係る事務を担っていました。

中島家文書 富山県公文書館寄託